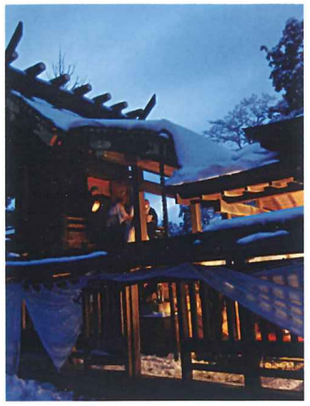
大口真神様の御神像を拝観して

みたけ山観光大使　俳優　伊吹　吾郎

青梅方面は、山や川、木々が美しく、四季折々訪れています。いい地酒があり、お酒も美味しいです。その中で御岳山にも何度か登っておりました。久しぶりに山に登ると、御嶽神社で偶然にも開山以来初という、お犬様の御開扉の時で、拝観させて頂きました。三体の内、左右には黒狼、中心に大きな白狼が神々しく祀られ、その時のは、素晴らしいの一言に尽きると感じました。この拝観が、後にお犬様を拝観したことは凄いことだと知らされました。テレビでも御岳山を二回ほど紹介させてもらいましたが、その都度「伊吹さんおいぬ様を見たんですか！それは凄い事ですよ」と言われ、なるほど・・・と。御岳山は意外と気軽に登れ、参拝の方も、お犬様は、老いぬ様、歳を取らない・・・と健康・長寿を祈願していらっしゃるようです。むろん愛犬も同様に、おいぬ様に参拝される方もいらっしゃるようです。何かミステリアスな部分と、神々しい「山」を感じる御岳山では、宿坊に泊まる事もお勧めしたい。何しろ御嶽神社の方々、商店街の方々、山の皆さんが心暖かく、食事もお酒も、大変美味しく楽しめます。私は、又、登りますよ、御岳山に。その時は皆さん、お声をかけて下さい。素晴らしい山「御岳山」　ヤッホー



*この度、良く御岳山へいらして下さる伊吹様に、観光協会より御岳山の観光大使になって欲しいとお願いしましたところ、ご快諾いただけました。今後ともよろしくお願い申し上げます

お御嶽（みたけ）さ～ん　お宮めぐり

三柱社（みはしらしゃ）

ご祭神　大歳神（おおとしのかみ）　御歳神（みとしのかみ）　大山咋神（おおやまくいのかみ）

別名　山末大主神

その名の通り豊穣を司る三神が、山頂を見上げるように積まれた、三百段以上の石段の参道の中腹辺りに祀られているお社です。参道とハイキング道への分岐点に祀られ、山神が奥の院や大岳山へ等へ向かう登山者や、ハイカーを見まもっているようにも感じます。大歳神は大己貴命に協力し、出雲開拓に尽力した神とされオオトシの「トシ」は祈年としごいのトシ（祈）をあらわし、豊年、豊作を表しており、民間行事では正月に年神棚を設けて年神様を迎え祀り、新年を祝うという行事の去来神ともされています。御歳神は大歳神の子であり、同じく豊作を表す稲神とされています。大山咋神は、元々は日枝山（比叡山）に宿る山の神で、赤く塗った鏑矢に化身し

※建玉依比売命（タケタマヨリヒメ）と結ばれた事から縁結びの神としても信仰が厚いほか、山が水の起こりとして、水源の神としても信仰されています。御岳山から流れ落ちる水が多摩川につながり、多くの農作物を育み、人々に笑顔をもたらせていた事でしょう。参道の中腹、一休みしながら、穀物や美しい水への感謝や、御岳山での旅路での、楽しいご縁を祈りながら、お参りください。

※丹塗り矢伝説（山城の国風土記より）

大山咋神が獲物に放った鏑矢が川に落ち、流れる矢を見つけた建玉依比売命が、あまりにも美しい矢なので眺めていると子を授かった

この丹塗り矢は大山咋神の化身であった。これは矢に化身した穀霊と穀霊を祀る巫女の神婚と解釈され穀霊の再生による豊穣を願う古代農耕祭祀の反映であると考えられる

*（9月の台風にて幹の直径が2mはあろうかという大杉が倒れかかり、被害を被りましたので急遽、画像を差し替えさせて頂きました。一日も早い修復を目指したい。）

スタジオフォー御嶽講　発講について

発起人　西島由紀子

このたび、片柳主幹宮司様のご指導のもと、「スタジオフォー御嶽講」を発講した西島と申します。何もわからない新参者ですがよろしくお願いいたします。

さて、先輩諸氏の講は数あれど、おそらく初めてのカタカナ名ではないかと思いますが、そういうことも含めてなぜ発講に至ったかを少しお話したいと思います。

私は昭和30年に福岡で生まれ、高校時代は山岳部で山登りに熱中していました。大学に入ると今度は音楽に熱中し、結婚、子育てなどもあって山とは縁のない生活になってしまいました。もっとも子供が小さい頃はキャンプやスキーに連れ出して、自然の中での遊びは心がけておりましたが。

さて、55歳にもなり、子育ても一段落、時間の余裕もできたため、また山登りをしたいと思うようになってきました。しかし40年近くもまともに運動をしてこなかったため、いきなり山に行くのはかなり不安でしたので、まずスポーツジムに通い、靴や道具をそろえ、東京周辺の登山情報をいろいろ調べて、3か月後に高尾山や秩父の山にいくつか登った後、去年の11月、御岳山に登りにきました。ちょうど紅葉真っ盛りの時期、JR御嶽駅を降りて多摩川の渓谷を見たときの感動は今でも忘れることができません。赤、黄、緑の木々の間を縫って青々と川が流れ、そこにカヌーや釣りなどで人々が集う、まさしく人と自然が一体となった一幅の絵です。そしてもっと驚いたのは山上のたくさんの宿坊と山頂にそびえ建つ御嶽神社。まるで天空の城ラピュタのようではありませんか。その時は、宿坊は特別な人々のものだと思っておりましたので、日の出山まで縦走し、つるつる温泉に入浴し帰宅しましたが、心はすっかり御岳山に魅せられておりました。

その後、御岳山の宿坊とはどんなものか色々調べてみたら、普通の旅館のように誰でも泊まれるということなので、11月下旬夫を誘って念願の宿坊泊。その時同泊となったのが、神奈川県からの講元さんです。まだ紅葉が残っていて、随所に広がる美しい風景に夫もすっかり魅了され、講についてのお話も色々と聞くことができました。また、私の母方の実家は神主の家系で母の葬儀は神道でしたので、これはご縁だと思い、講員となりしばしば訪れたいという思いが強くなりました。しかし既存の講は地域のつながりで成り立っており、そういうつながりの全くない者にとってはかなわぬ夢のような話。すると宮司様は「西島さんがご自分で講を作れば良いのですよ。」と勧めてくださり、ついに発講に至ったというわけです。

実は私は巣鴨で「スタジオフォー」という音楽スタジオを経営していますが、ここで開催される音楽ライブや落語会にはたくさんの人が集って、新しいコミュニティーとなっています。私は講名を登録するにあたり、人々の心のつながりが、新しい時代の講となるのではないかと思い、スタジオの名前を入れさせていただきました。昔は地域のつながりが人々のつながりとなって、講も地域での単位となっていたようですが、今では地域のつながり自体がだんだん消滅してきています。これからは、地域にとらわれない新しいコミュニティーとしての講もあるのではないでしょうか。スタジオに集う人々が楽しみ、癒され、彼らと一緒に美しい御岳のお山に登る、そしてその仲間がどんどん増えていく、そんな将来を夢見て、私は日々の仕事に励んでいます。